

# 令和2年度政策開発推進事業の最終報告書(概要版) 行動デザイン(ナッジ等)を活用した効果的な政策の実現に向けて

令和3年3月30日 北海道行動デザインチーム

## 1 概要説明 (ナッジとは?)

行動科学の知見に基づいた「人々が自分にとってより良い選択を自発的に取れるよう手助けする政策手法」。新たな政策手法として国際的に注目され、日本政府も成長戦略(令和元年度)にナッジを位置づけ、日本版ナッジ・ユニットを設置(平成29年度)し、政策適用に向けて省庁横断で運用。

道政にナッジを  
活用できないか?

## 2 事業趣旨

北海道におけるナッジ推進チームをモデル的に運用し、必要性を検討  
北海道行動デザインチーム(Hokkaido Behavioural insights Team = H<sup>o</sup>BiT)を結成(R2.10~)

- 行動デザイン(ナッジ等)を活用した成果の向上とその定量化を推進し、道庁及び道内自治体に費用対効果の高い公共サービスを展開する
- 省庁・自治体・アカデミアなど多様な主体との連携を図り、補完体制を構築することで道政に貢献するネットワークを整備する



ナッジ(直訳): 肘でつつく

## 3 事業実績

事業実施期間: 約5ヶ月

### 事業① 興味関心を促す【普及啓発等】

- ナッジの理解及び活用を促すための情報発信や普及啓発を展開
  - ・北海道大学はじめ多様な主体連携による訴求行事や研修会を開催(R2.10~R3.2 計9回)
  - ・共有ツール「Slack」を活用、参加者ネットワークの構築による仲間づくりへ

### 事業② 活用環境を整備する【体制・事例調査等】

- 次年度の体制構築に向けて、幅広い知見の収集と道内外ネットワークの確保
  - ・横浜市行動デザインチーム(YBiT)と岡山県ナッジユニットを対象にヒアリング実施
  - ・日本版ナッジユニットや自治体ナッジ会議等に参画し、産学官民の幅広い相談体制を確保
  - ・収集文献を基に優良事例を17件整理し、簡易事例集を作成の上、水平展開
    - … 英国ナッジユニット「行動インサイト(ナッジ)を用いたCOVID-19対策」を翻訳し掲載

### 事業③ 先導事例を創出する【事例創出等】

- 全国共通課題への取組実践
    - ・国内の既存事例で得られたナッジ等の知見を導入し、その有用性を素早く道内に示す
      - 事例① 本庁玄関の消毒剤利用率向上(新北海道スタイル推進): 介入前26% → 介入後77%
      - 事例② セイコーマート北海道庁店のレジ袋辞退率向上: 介入前39% → 介入後63%
  - 道内地域課題への取組実践
    - ・ナッジ等を活用した地域ならではのモデルケースを創出し、応用性の高さを道内に示す
      - 事例③ エゾシカのロードキル対策(交通事故対策)設計
      - 事例④ ヒグマの人里侵入対策設計 など
- (省庁職員等で形成するNPO法人Policy Garageの支援を受けつつ、令和3年度も継続実施)

## 4 道政への適用に向けて

- ◆ 環境生活部総務課内に事務局機能を有する窓口を設置、有志メンバーと協力しながら継続的に庁内展開を進めるとともに、EBPMと足並みを揃えた取組を推進
- ◆ 今後の全庁的展開及び個別の重要政策課題(コロナ等)については、次年度も政策開発推進事業の活用を検討